第3回習志野市立藤崎保育所移管先法人選考委員会会議録

1. 開催日時　令和4年12月17日（土）午前8時45分～午後5時05分

2. 開催場所　習志野市庁舎3階　特別会議室及び大会議室

3. 出席者

【委 員 長】	習志野市副市長	諏訪　晴信
【副委員長】	習志野市こども部　部長	小平　修
【委　　員】	習志野市立保育所私立化ガイドライン改定懇話会の委員であった者	田島　大輔
	習志野市民生委員児童委員協議会　推薦	中川　紀子
	習志野市民生委員児童委員協議会　推薦	井口　百合子
	習志野市政策経営部　部長	竹田　佳司
	習志野市総務部　部長	遠藤　良宣
	習志野市こども部こども保育課　課長	佐久間　心之
	習志野市立藤崎保育所　所長	五十嵐　公子
	習志野市立大久保第二保育所　所長	近藤　明美
【事 務 局】	こども部　次長	相澤　慶一
	こども部こども政策課　課長	齊藤　洋介
	（こども部）主幹	新井　理香
	企画管理係長	石橋　寛
	施設係長	松本　大輔
	副主査	清水　隆之
	主任主事	龍田　和樹

以下のものについては、「公開プレゼンテーション」の出席者

【法　　人】　学校法人 三星学園

渡辺　竜太（理事長）、山口　充子（施設長予定者）

法人Ａ

理事長、施設長予定者、担当者

法人Ｂ

理事長、理事、施設長予定者

法人Ｃ

理事長、理事、理事

法人Ｄ

理事、担当者、担当者

法人Ｅ

理事長、施設長予定者、担当者

法人Ｆ
理事長、施設長予定者、担当者
【保 護 者】　７世帯　　１１名

４. 議題
第１　会議録の作成等
第２　会議録署名委員の指名
第３　審議
（1）二次審査（公開プレゼンテーション）の審査方法について
第４　その他（事務連絡等）
第５　公開プレゼンテーション
（1）学校法人　三星学園
（2）法人Ａ
（3）法人Ｂ
（4）法人Ｃ
（5）法人Ｄ
（6）法人Ｅ
（7）法人Ｆ

５. 会議資料
資料1　　藤崎保育所移管先法人の二次審査方法
資料2−1　藤崎保育所移管先法人の二次審査参考資料
資料2−2　藤崎保育所移管先法人の二次審査事務局所見
資料3　　事前質問等に対する回答票
資料4　　藤崎保育所移管先法人の二次審査　仮採点票

６. 議事内容
開会
【諏訪 晴信 委員長】
ただいまより、第3回習志野市立藤崎保育所移管先法人選考委員会の会議を開会する。
限られた時間の中で円滑な会議を進めていきたいと考えているので、会議の進行にご協力をお願いする。
習志野市立藤崎保育所移管先法人選考委員会設置要綱第6条の規定により、委員5名以上の出席が成立要件となっている。
ただいまの出席委員は10名全員であり、本会議は成立した。

第１　会議録の作成等
【諏訪 晴信 委員長】
会議録については、要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場所、出席者氏名、審

議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載した上で、会議ごとに確定するが、第1回会議において決定したとおり、移管先法人の決定後に、すべての会議録を市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公開する。

なお、本日の公開プレゼンテーションについては、私立化ガイドラインに基づき、保護者のみを対象に公開することとしている。

これらに異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪 晴信 委員長】

異議なしと認め、そのように取り扱うこととする。

第2 会議録署名委員の指名

【諏訪 晴信 委員長】

会議録の作成にあたり、正確性・公正性を期するため、会議録署名委員を私から指名したいと考えるが異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪 晴信 委員長】

異議なしと認め、田島委員、中川委員、井口委員を指名する。

第3 審議

(1)二次審査(公開プレゼンテーション)の審査方法について

【こども政策課長 齊藤 洋介】

前回会議で承認いただいた審査方法に従って、これまでの進捗を説明する。

書類審査、面接審査及び現地調査について、事務局による審査結果を事務局所見として、資料にまとめている。各委員の二次審査の参考資料としていただきたい。

また、応募書類の提案内容を閲覧した藤崎保育所保護者から、4件の質問等があった。これらの質問等について、応募法人に回答の作成を依頼し、回答を取りまとめたものを資料としてまとめているので、各委員の二次審査に係る参考資料としていただきたい。

また、この回答は、藤崎保育所の保護者にも配付している。

次に、公開プレゼンテーションについて、このあと9時から予定しているプレゼンテーションにおいては、各委員は、仮採点票を用いて仮採点を実施していただく。参加保護者に対しては、保護者アンケートを実施する。本日の参加者は9世帯13人の予定である。

本日のプレゼンテーションに参加出来ない保護者にも選考に関わる機会を確保するため、公開プレゼンテーションを録画したDVDを貸し出し、保護者アンケートを提出していただく。

なお、その旨は、募集要項にあらかじめ記載し、応募法人へ周知している。

プレゼンテーション当日及び DVD の貸し出しで実施した保護者アンケートについて

結果をまとめ、各委員の二次審査に係る参考資料とする。

プレゼンテーションの内容・方法と二次審査については、前回会議での説明から変更はない。

第4回会議については、令和5年1月18日17時からを予定している。

【諏訪　晴信　委員長】

事務局から説明のあった事項について質疑はあるか。

【竹田　佳司　委員】

本日は仮採点とのことであるが、仮採点票は本日は持ち帰り、第4回会議において改めて最終採点を行い、提出をするという理解でよろしいか。

【事務局】

そのとおりである。

【諏訪　晴信　委員長】

お諮りする。

事務局報告のとおり、二次審査の審査方法を決定したいが、異議はあるか。

【一同】

異議なし。

【諏訪　晴信　委員長】

異議なしと認め、二次審査の審査方法は、事務局報告のとおりとする。

第4　その他（連絡事項等）

【こども政策課長　齊藤　洋介】

本日のスケジュールを説明する。

この後9時より大会議室において公開プレゼンテーションを実施する。3法人のプレゼン後、昼休憩をはさみ、さらに4法人のプレゼンを行い、終了は午後5時を予定している。

各委員におかれては、法人への質問及び仮採点をお願いする。

なお、本日は7法人のプレゼンを予定しているが、各法人に対して応募法人数を公表していないため、各法人の応募書類は、当該プレゼン資料のみを机に出し、残りは目立たなくするなどの配慮をお願いする。

第5　公開プレゼンテーション

【諏訪　晴信　委員長】

本日はお忙しい中、お集まりいただき、心より感謝を申し上げる。

すでに承知と思うが、本市は、令和2年3月に策定したこども園整備と既存市立幼稚園・保育所再編計画　第3期計画において、2こども園の整備と3保育所の私立化を予定している。

藤崎保育所は、令和7年度に私立化することとしており、この移管先法人の選考に当たり、6月20日より公募手続きを開始し、9月30日までの応募受付期間に、7法人から応募いただいた。

本日は、その7法人から応募理由、法人としての保育方針・目標などをプレゼンテーション形式で提案いただくものである。

保護者の皆様方には、私ども選考委員と一緒に提案内容をお聞きいただき、配付しているアンケートにて、忌憚のない意見をいただきたい。

また、選考委員会委員におかれては、今後の最終審査に向け、応募法人の提案内容を十分に理解いただけるよう、時間の許す限り質問していただくようお願いする。

本選考委員会は、本日のプレゼンテーションの内容と保護者アンケート結果などを総合的に判断し、安心して子どもを預けられる法人、また将来にわたり習志野市と協力して保育を実施いただける法人を選考したいと考えている。

本日は、長時間にわたるが、よい法人を選考するため、ご協力をお願いする。

（1）学校法人　三星学園

【学校法人　三星学園】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田　佳司　委員】

今回の藤崎保育所の私立化は、子どもが居ながらの施設整備という困難を伴う移管になると思われるが、応募に至った一番の理由は何か。

【渡辺　竜太　理事長】

藤崎保育所は都市部から約20キロ圏内にありながら敷地が緑豊かで広いというところに魅力を感じる。また、地域の繋がりをしっかり持っていると感じた。当法人も40年以上同一の場所で施設を運営しているが、地域の方と繋がりながら一緒に作っていくということはとても大切だと思っている。本日多くの保護者に参加いただいていることは、それだけエビデンスがしっかりあると感じる。当法人やってきたことが活きるのではないかと思っている。

施設設備について、園庭を使いながら建て替えるというのはハードルが高い部分もあるが、当法人でも全面建て替えを行った実績があるので、その経験を生かせると思っている。

【竹田　佳司　委員】

特に強調したい点として、藤崎保育所が培ってきた保育のよさと、法人の保育のノウハウの相乗効果というところと、既存園とはいい意味で差別化できるという提案があるが、この部分について具体的に伺う。

【渡辺　竜太　理事長】

外観からの見学のみのため十分把握していないという前提で答える。

まず保育理念について、藤崎保育所は3つの保育理念があるが、その理念と当法人の理念がマッチする部分がある。習志野市は保育一元カリキュラムを策定しており、藤崎保育所はこのカリキュラムを体現している園だと思うので、カリキュラムを当法人も学びつつ、当法人のノウハウの良いところを乗せながらやっていきたい。

また、市内の既存園とは切磋琢磨する時代だと思う。子どもの数が減少している中で、保護者が施設を選択する時代になっている。当法人は習志野市にはまだ施設がないので、新たな選択肢の一つになっていければいいのではないか。もちろん移管なので、今の文化を継承することが大事だが、徐々に当法人の良さを保護者に理解いただき、何かこの園面白いよね。通わせてみたいねって言っていただけるような園にしてい

きたい。

【遠藤 良宣 委員】

今回の居ながら工事については、現在通っている子ども達にとっては新築工事、その後の解体工事と、複数年に渡って様々な工事の影響があると思う。提案の資料を見る限り様々な検討をいただいているようだが、法人として、親が安心して園に送り出せる体制についてどのような決意でいるのか。

【渡辺 竜太 理事長】

自分の子が通う園が建て替えとなった場合どうなるかという観点も含め、今回提案書を記載した。

一番大事にすべきは、子どもと保護者の安全である。しっかり安全に配慮し、場面場面でご意見をいただきながらしっかりやっていく。

また、建て替えという経験は子どもたちにとって面白い経験にもなるのではないかと思っている。建物が建っていく様子を目の前で見られるのは、プラスとなる面も無くはない。子どもたちと共有しながらやっていきたい。

【田島 大輔 委員】

主体的な子どもを目指す保育を提案している一方、多様な外部講師の登用やコーナー保育というようなメソッド的な保育の提案もある。この両面についてどのような保育内容の展開を考えているのか。

【山口 充子 施設長予定者】

子どもたちは遊びの中から自分で様々なものを見つける。子どもが色々な遊びができるよう「選べる」ということが大切だと思う。コーナー保育は、保育者が子どもたちのことをよく知り、子どもたちの成長に合わせて色々な提案をすることで、子どもが自分の好きなものを主体的に選ぶことにつながるだろう。

【田島 大輔 委員】

主体性と、外部の人材の登用のバランスを考えていくということと、中身についてはかなり吟味していくと捉えてよろしいか。

【山口 充子 施設長予定者】

そのとおりである。

【田島 大輔 委員】

提案にはメソッド的に見える部分について丁寧に書かれているが、トータルでバランスを考えていくという理解をした。

最後に、急激に新施設を開設しているようだが、法人内でのコンセンサスをどうやって取っていくのか。非常に重要なことであり提案書に丁寧に書かれているが、新設園ができること、または法人内の施設の規模のバランスの問題もあると思う。コンセンサスをとるために、どのような研修をどれくらいどのように行っていくのか具体的な提案を伺う。

【渡辺 竜太 理事長】

法人内のコンセンサスについては、私が今日話した内容や、なぜ一人一人を大切にしなくてはならないのかというところを、開園前などに全職員を集めて研修するが、その際、理念、事業計画、事業方針について、まず丁寧にしっかりと私の方から時間をかけて説明することがとても大事だと思っている。

法人が運営している園はそれぞれ色が違う。環境がそれぞれ異なり小規模には小規模のよさもある。保育の特色という面では、各園が良いところを出して、尊重していくのが大切だと思っている。

研修については、保育様式が違う法人内の園の中を別の園の先生たちが回る中で、同じ法人の中でもこういう考えでやっているのかと参考にしたり、小規模の園の先生が大規模園を見学する中で、大きい集団を先生たちがどのように保育してるのかを学ぶなど、法人内の研修もとても大事だと思っている。

もちろん外部の講師による研修も実施している。支援を要する子どもに対してどう保育していくか、どう寄り添っていくかについては、先生たちの声も多く、そういった観点は大事に取り入れている。また、役割に応じたマネジメント研修や、現場であれば、一斉保育からどのように今の保育に切り替えていくかというところは重要視している。

【田島 大輔 委員】

習志野市に1園となるわけだが、法人内でのバックアップ体制や連携はどのように考えるか。

【渡辺 竜太 理事長】

確かに習志野市では1園目になるが、当法人の施設から1時間以内で来ることができる。

必要な職員を開設前の段階でしっかり派遣し、これまで公立保育所として藤崎保育所が大事にしてきたところを、私を含め職員が自ら吸収し、法人の中でフィードバックしていく。そういったことにより、例えば急にヘルプで来る職員にもそのことを伝えることができ、結果どの職員が行っても戦力になると思う。当たり前のことかもしれないが、法人の中でしっかり説明していくことが大事だと思う。

【五十嵐 公子 委員】

子どもや保護者と信頼関係を構築するために、私立化の過程で特に大切にすることは何か。また、私立化後に法人として特に力を入れていきたいことは何か。

【渡辺 竜太 理事長】

１点目について、これまで待機児童の関係で保育士さんはありがたいという話をいただいていたが、昨今の虐待事件の関係で、やっぱり保育士さんってどうなのかなと思われるのが正直辛いところである。まずしっかりと体制を整えるというところで、例えばバスの事件も虐待も、まず自分事として捉えるよう話をしている。少し子どもの手を引いたことが見方によっては手を強く引っ張ったとなると思うし、バスについても一歩間違えれば残念な事故に繋がってしまうところがある。

また、保育の姿勢について、基本に忠実に丁寧にという意識をしっかりと高めた上で、移管をしていきたい。

２点目のどんな色を出していきたいかということについては、保育者、保護者、そして子どもたちと一緒に作り上げていきたいと思っている。法人としてこれがメソッドだから統一したいという気持ちはなく、その地域に合った保育所の運営の方法について、対話をし、楽しみながら、一緒に作り上げていくことを目指していきたいと考えている。

【近藤 明美 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について、施設の中で療育ができるように今

後考えていくというような話もあったが、クラスの中で特に配慮をし大切にしていきたいことは何か。

【渡辺　竜太　理事長】

クラスの中で他の子を見て育つことはたくさんある。加配の先生のフォローによってその子が他の子と関わる経験をたくさんさせてあげたい。それがクラスの中で特別な支援が必要な子どもを預かり、一緒に保育していくうえで一番大切なところだと思っている。ただ、その子どもにとって情報量が多くなってしまうので、それを整理する時間としての位置づけが個別の療育だと思っている。

将来的に子どもが減って、必要な保育室も少なくなってくる。保育所の中に療育や児童発達支援施設を併設する方向に国も動いているので、集団の良さと個別の良さ両面を出し、クラスの中での子ども同士の関わりをたくさん経験させてあげたい。

【井口　百合子　委員】

藤崎地区には未就園児が安心して過ごせる場所が少ないように感じている。地域に愛され、地域の子育ての拠点となる園を考えているようだが、具体的に子育て世帯へどのような支援を考えているのか。

【渡辺　竜太　理事長】

まず、施設面について、多目的室など少し部屋を多めに設置しているので、そこで子育て広場事業のような拠点事業、これは市からの受託ということではなく自分たちでワークショップのようなものを開催していきたいと思っている。

社会的な課題として園に属していない子どものフォローはとても大事だと思っている。保育園に預けている保護者も大変だが、１日２４時間自分で子どもを看ている保護者はとても大変だというのは私も強く感じるところであり、そういう方たちが、気軽に保育園に足を運べる形でオープンしたい。

一時預かりが入口になって、そこからワークショップなどを通し、散歩に行く感覚で園に来て繋がっていくことが大切だと思っている。そういう方たちを巻き込んで園を作っていきたい。

【佐久間　心之　委員】

昨今、他法人での保育者による虐待関係の報道があるが、法人ではこれらの報道を受けどのように向き合っているのか。

【渡辺　竜太　理事長】

絶対ないことではないとして、まず自分事として捉えるよう話をしている。報道について、子どもの気持ちに反して子どもを動かしたのではないかと感じた。ちょうど運営する松戸市の園で本日研修を行う予定であり、その中で今年を振り返り、こういうところを見直していこうという保育者同士のディスカッションを行う予定である。他の既存園でも実施している。絶対にないように頑張っていきたい。

【小平　修　副委員長】

職員配置採用計画の中で看護師2名の配置を予定しているが、うち１名は補佐的役割なのかあるいは何か他の役割を想定しているのか。

【渡辺　竜太　理事長】

0歳児担任として配置するなどの看護師が保育に入る想定はしていない。

看護師は、体調不良の子どものケア、保健衛生、安全対策、また地域からの相談に対してのアドバイスなど、園内だけでなく地域との繋がりづくりの部分でもその力は大きいと考えており、園の中と外についてしっかり動いていただくためには、この規模の園であれば2名の配置が必要だと考えている。ただ、常勤2名はさすがに多いと感じたので1名非常勤とした。

【竹田 佳司 委員】

コロナ禍における保護者との関係づくりにおいて工夫している点は何か。

【渡辺 竜太 理事長】

この2年間、もっと子どもの姿を見たかったとの保護者の声がとても多かった。

透明性のある保育は大事だと思っている。保育参観については、一日のみで行うのではなく、2週間程度の期間を設け、来られる日に自由に参観できるように変更した。園の中を見ていただくことにより納得いただける保護者は多い。コロナ禍でも、園の中を見ていただく機会を園が提供することが大切だと思う。

また、まだ試行段階だが、プライベートのアプリを使用し保育の様子をライブ配信する準備も進めている。保護者の声も聞きながらしっかりやっていきたい。

（2）法人A

【法人A】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田 佳司 委員】

今回の藤崎保育所の私立化は、子どもが居ながらの施設整備というハードルの高い事業だと思われるが、応募に至った一番の理由は何か。

【理事長】

当法人は経験から民営化の手順をよく知っているので、困難な面もあるが、クリアしていけると考えたからである。

【竹田 佳司 委員】

提案内容の中に、法人の既存園の保育のノウハウを十分に生かしながら、長所を反映していきたいとの記載があるが、具体的な内容を伺いたい。

【施設長予定者】

前向きに保育を進めていくということである。安全に子どもたちが過ごせるよう、前向きに良いところを捉え、考え、想像しながら保育を進めていくというところである。

【遠藤 良宣 委員】

子どもが居ながらの工事を経験しているのが大きなメリットだという説明があったが、建設工事というのは、周辺の状況などにより、前例が当てはまらないこともあるだろう。

貴法人がこの工事を手がけることになった場合、現在藤崎保育所に子どもを通わせている保護者に対し、ここは間違いなく移行できるので安心していただきたいというような点や、保育時間内の配慮で他園での成功事例など、居ながら工事について、貴法人が訴えたい点、アピールしたい点は何か。

【理事長】

藤崎保育所を新築する際は今の道路を拡張する予定である。

園が中に入り込むような形になるので事故が起こらないように監督をしていく。近隣の町会の皆さんに説明し、また提案をいただき、了解を得ながら納得のいくような形で進めていきたい。

【遠藤 良宣 委員】

特別な支援を要する子どもに対する保育について、本市においても、特別な支援を要する子どもの数は増えていると思われる。地域に暮らす特別な支援を要する子どもに対しどのような保育、教育を手掛けていきたいと考えているか。または、既に運営されている園では、どのように取り組んでいるのか。何か思いがあれば伺う。

【施設長予定者】

障がいの有無にかかわらず、一人一人個性ととらえて、子どもたちに、みんな違ってみんないいんだよと伝えていきたいと思う。

【田島 大輔 委員】

保育内容について、既存園について私が見聞きする中で、とても丁寧な保育をされていると思うが、これから保育園を新たに作っていくうえで、保育内容の定着を図るため、どのようなことを大事にするのか。

【施設長予定者】

保育も人と人の関わりだと思うので、そこを大事にしていきたい。心に寄り添って、保育をするというところである。

【田島 大輔 委員】

具体的な提案はあるか。

【施設長予定者】

日々、保育の内容や、理念、目標は、職員と共有できるように伝えていきたいと思っている。

【田島 大輔 委員】

現在勤めている園ではどのように取り組んでいるか。

【施設長予定者】

午睡時間を利用し、日々の保育を保育指針などと照らし合わせながら、クラス担任同士、または職員同士で確認している。

【田島 大輔 委員】

園単位で、質の向上に努めている印象がある。法人全体として質の向上のためにどのような取り組みを考えているか。

【担当者】

現在は各園の実情に応じて園長が判断したことを行っている。

【田島 大輔 委員】

既存園の指導監査において保育士の配置について文書指摘がなされている。保育士の配置は質の向上の鍵だと思う。保育士の確保について法人全体としての考えを具体的に伺う。

【担当者】

保育士の配置については既存園からの異動と、現在同様、保育士養成学校において園の紹介を行い、採用していきたい。また、現在藤崎保育所に勤めている会計年度

任用職員についても積極的に採用していきたい。

【五十嵐 公子 委員】

子どもや保護者との信頼関係を構築するために、私立化の過程で特に大切にしたいことは何か。また私立化後に特に力を入れていきたいことは何か。

【施設長予定者】

保護者と日頃の保育などを共有できるように、SNS等で積極的に発信していきたい。

子どもとの信頼関係については、虐待の報道が最近多いが、虐待は子どもの人権の侵害だと思う。子どもの時期の体験は後の人生に大きな影響与えると思うので、何が虐待に当たるのか、そして虐待の芽って何だろうというところを知識として職員全員で理解し、小さい芽のうちに摘めるように気がついたらすぐに軌道修正していく行動力を持ちたいと思っている。

子どもの心身の健康や、安全、安心、安定した環境づくりがとても大事だと思うので、そこに努めていきたい。

【近藤 明美 委員】

特別に支援を要する子どもを受け入れるにあたり、学級の中で特に配慮して、大切にしていきたいことなどについて具体的に伺う。

【施設長予定者】

個別の支援計画を職員全体で考えながら立て、その計画に沿って保育をしていく。

【近藤 明美 委員】

外部の関係機関等との連携についてどうか。

【施設長予定者】

市役所や児童相談所、市の保育指導委員会と連携を取りながら進めていきたい。

【中川 紀子 委員】

地域との交流について、現在はコロナ禍で非常に難しいと思うが、中学生の職場体験の受け入れや高齢者との交流など、今後どのように地域と関わっていきたいと考えているか。

【施設長予定者】

子どもたちは、地域の中で育っていくので、在園時のみならず、卒園後も地域の学校や、関係機関と繋がっていけるよう、協力体制をとっていきたいと思っている。市内で当法人が運営する保育園では、近くの高校の吹奏楽部が来園して子ども達の前で演奏してくださったことがあり、その際、当法人の他の保育園の子どもたちもそこに出向き、一緒に見学させてもらうということがあった。このような地域との交流は是非取り入れていきたいと思っている。

【中川 紀子 委員】

工事について、大型トラックが朝夕の通園の時間に通行することがあるだろう。保育所周辺は渋滞すると思われ、その結果工事車両が裏道を使うこともあると思われる。今まで工事車両が通っていなかった道を工事車両が通行するということは、子どもたちにとって危険性があるだろう。このあたりについて工事関係者への指導について考えていることがあれば伺う。

【理事長】

接触等による車の事故は、当然あってはならないことである。工事により道路が広くなることで、大型車両も通行することになる。建設会社との話し合いの中で安全について十分注意を促すが、ガードマンの人数についても強化したい。このことは約束する。事故が起こらないような形で建設に携わりたいと思っている。

【佐久間 心之 委員】

不適切な保育について全国的に話題に上がっている。先ほど施設長予定者から施設での取り組みを伺ったが、法人として、現在運営している園に対する不適切な保育についての取り組み、または、再度改めて向かい合っていることなどがあれば伺う。

【理事長】

現在新聞やニュース等々で毎日のように報道がある。絶対あってはいけないことである。コロナ禍で先生方が多忙になったことが大きいのではないかと思う。

子どもが楽しく保育園に来られるように、いじめなどの芽は取り除くなど職員全員で考え頑張っていきたいと思う。

【小平 修 副委員長】

保護者からの事前質問に対する回答から伺う。

食育の取り組みの予定として、習志野市の特産物である人参や習志野ソーセージをメニューに取り入れていきたいという回答があり、地域に密着した取り組みの一つだと思っている。この取り組みを通して子どもたちに伝えたいことなど、考えがあれば伺う。

【施設長予定者】

子どもたちが、自分が生まれた場所や地域のことを知ることはとても良いことだと思う。郷土料理や“懐かしい味”がわかると豊かになると思う。

【小平 修 副委員長】

法人の基本的な考え方として、そのようなことに取り組んでいるという理解でよろしいか。

【施設長予定者】

そのとおりである。

【田島 大輔 委員】

施設長予定者は保育者としては経験豊富だが、管理職、準管理職の経験はあまりないと伺っている。施設長と主任はキーパーソンになってくると思うが、現在主任予定者が決まっていないという状況である。法人として今後どのように考えていくのか採用計画について伺う。

【施設長予定者】

その後、主任予定者は習志野市在住の地域のことをよく知っている方に決定した。

【田島 大輔 委員】

主任予定者は、管理職、準管理職の経験はないが、習志野市のことをよく知っている方ということか。

【施設長予定者】

そのとおりである。

（3）法人B

【法人B】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田 佳司 委員】

今回は子どもが居ながらの施設整備ということで、少しハードルが高い方法かと思うが、その中で貴法人が応募に至った一番の理由は何か。

【理事長】

習志野市では平成18年度に東習志野こども園を整備しており、これは全国的にもかなり早い整備である。その中で、公表されている資料から実際運営を開始してからの問題点なども見受けられ、それらを改善していく積み重ねがあって今の習志野市の保育があることを感じた。習志野市ではこども園整備と既存市立幼稚園保育所の再編計画が明確にされている。当法人の今までの経験や実績を生かしながら、民間の活力として将来を背負う子どもたちをお預かりし育てる、ということが当法人の目的であるため、応募した。

【竹田 佳司 委員】

応募書類の中に習志野市について魅力的な自治体という記載もある。率直に習志野市の保育というものについて、今どのように認識をされているのか伺う。

【施設長予定者】

現在習志野市内の保育園に勤務している。保育園同士の横の繋がりがあったり、ひまわり発達相談センターの研修があったり、職員も来園されたり、市全体で子どもを育てていこうとしているところが魅力的だと感じている。

【竹田 佳司 委員】

貴法人は、どちらかというと幼児教育の歴史が非常に長く、その部分ついては十分評価をするところであるが、福祉的な養護という部分については経験的にまだ短めかと思うが、目指すものなどあれば伺う。

【施設長予定者】

保育における養護とは、生命の保持や情緒の安定を図るために欠かせない関わりだと思っている。子どもが心身ともに心地よいと感じる環境や人為的環境を作りながら、主体的に育つための援助を目指していきたい。

また、社会的養護として、例えば、登園の際に汚れてしまったといった場合には、園の方で衣服を綺麗にするなどしてから、保育に入っていきたい。

【理事長】

養護に関しては、様々な家庭環境があると思う。家庭より園の方が安全に育っていくこともあるだろう。食事面でも、家庭だと行き届かない場合は、重点的に把握し、子どもの様子を常にチェックし、発達状況や健康状況を見て、保護者とコンタクトを取りながらやっていきたい。

【遠藤 良宣 委員】

施設整備にあたり、回遊性、ネット遊び、築山、起伏のある園庭など、子どもたちの運動量を高めていきたいという運営者側の意図が感じられた。こういった施設整備をしていきたいという思いは、これまでの経験上、どのように生まれたのか。

【理事】

当法人が運営している幼稚園型認定こども園（約 180 名）、幼保連携型認定こども園（約 120 名）、同一母体の社会福祉法人が運営する保育園（約 60 名）の園庭についてであるが、幼稚園型認定こども園の園庭は、昔ながらの良くも悪くもオーソドックスな園庭であり、幼保連携型認定こども園の園庭は、芝生があり、遊具も最近のもので保護者に喜んでいただくことが多く、保育園の園庭は泥んこ遊びができるタイプで、施設長が公立の保育園で長く勤務していた方で上手くまとまっている。

先生方の職歴は様々であり、園ごとに考え方が違う。

幼児教育と保育は似て非なるものだと思う。現在すばらしい先生たちに勤めていただいているが、今回幼児教育と保育の部分をミックスして新たなものとして作りたいと思い、今回こういった施設の提案をした。

【理事長】

報道でもあるように、数年前より子どもたちの体力の低下が問題になっている。この体力の低下を未就学児の段階から防ぎたいという気持ちがある。

園庭の起伏や遊具について、その一環として、普段使わない筋肉の発達なども考えた上での設置を考えている。

【遠藤　良宣　委員】

国の報告で、小中学生の体力低下が昨今大きく騒がれており、このような施設整備の中で、就学前に基礎体力の増進を図れる、それがひいては子どもたちの成長に大きく繋がるという提案をいただいたと受けとめた。

平成30年度に県の検査指導において、一部の園児の指導要録等が整備されてないといった指摘を受けたと思うが、その原因と、法人としてどのように改善を指導監督したのか伺いたい。

【理事長】

その指摘については、転園した園児の学籍簿を転園先に送付した際、指導要録の写しを保管しておかなかったということだったと記憶している。

今後は転園した園児についてもしっかり控えを取って転園先に送付していく。

【遠藤　良宣　委員】

その後はしっかり徹底し、同じようなことは起きていないという理解でよろしいか。

【理事長】

そのとおりである。

【田島　大輔　委員】

大規模かつ自由があり、回遊性があり、そして、各々が行き来できるような園庭を目指しているということならば、かなりの保育内容の工夫が必要だと思うが、今の時点でどのような工夫を考えているのか。

【施設長予定者】

担任は自分のクラスだけではなく隣のクラスの子どもたちも一緒に見るという考え方である。またフリー保育士や、施設長、主任保育士は必ず子どもの遊びの場に一緒に加わっていきたいと思っている。

【田島　大輔　委員】

今の話は、日頃の保育内容として極めて基本的なことで、大事にされていることだと

思う。今回提案いただいた施設においては保育内容にかなり工夫が必要になってくると思われるが、その点は今後考えていくということか。

【施設長予定者】

今後職員とともに考えていきたい。

【田島 大輔 委員】

法人の所在地が習志野市からかなり距離がある。今後、保育園を作っていくにあたり法人として、大事にしていきたい保育理念や、法人としてのコンセンサスを取るために、研修などの体制について法人としてどのように考えているか。また園の研修をどのように進めていこうと思っているか。ビジョンを伺う。

【理事長】

まず、現在設置している園については、所在地の自治体が計画している研修には積極的に参加している。また園内研修もテーマを設けて行っている。キャリアアップ研修も修了するように参加している。

【施設長予定者】

職員のスキルアップを図るため、忙しいときなどは派遣職員を利用しながら、外部研修をしていきたいと思っている。また、研修に参加した職員は研修報告書等を記入し、その職員が講師となり、職員会議等で他の職員に周知することは必ず行っていきたい。

【田島 大輔 委員】

保育士の確保及びキャリアパスをどう考えていくかは非常に重要だと思う。施設長予定者は管理職の経験があまりないとのことだが、管理職としての資質を法人としてどのように考えるのか。

また、県の指導監査において、主たる保育時間において職員が不足している時間帯があることを文書指摘されている。是正はしていると思うが、新しい地域に開設するにあたって相当数の職員が必要になると思うが、職員の採用計画についてと、中核を担う職員をどのように育てていこうと思っているのかについて法人としての考えを伺う。

【施設長予定者】

園長研修への参加や園長会議等において他の園の園長に教えていただきながら進めていきたい。

【田島 大輔 委員】

法人として職員採用計画についてはどう考えるか。

【理事長】

まず、必ず休憩が取れるようなシフトにする。職員の採用に関しては、ハローワークや各種人材の求人広告のサイト、保育士、幼稚園教諭に特化した求人広告サイトを活用していく。人材育成については、特に若手の職員に関しては、採用時から2、3年のうちは、3歳未満児の複数担任で経験した後に、それぞれの向き不向きも考慮しながら配置を考えていきたい。

【五十嵐 公子 委員】

最近連日のように、保育者による虐待の報道があるが、子どもや保護者との信頼関係を構築するために、私立化の過程で特に大切にすること、また私立化後に特に力を

入れたいことについて伺う。

【施設長予定者】

虐待防止については、どのようなことが虐待にあたるのか、それを文書化し職員で共通理解しながら、定期的にチェックリストを利用してチェックしていきたい。

また、施設長や主任保育士が定期的に巡回したり保育に入ったりしながらサポートし、クラスの問題点を１人で抱え込まないようにしていきたい。

【近藤 明美 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について、学級の中で特に配慮し大切にしていきたいことは何か、具体的に今受け入れている事例があれば伺う。

【理事長】

現在、支援に配慮が必要で、身体的な発達もゆっくりな子どもを受け入れている。看護師が様子を見ながら、また、加配保育士を１人配置し、クラスの活動も支障なく進むように、またその子どもを安全にクラスの活動についていけるように保育している。園で過ごす気持ちが違ってくると思うので、その子ども1人を別にするのではなく、必ずその集団の中で同じように過ごせるようにしている。

【井口 百合子 委員】

先ほど話にあった、家庭にいるより園で過ごした方が安心安全であるという子どもがいた場合、どのように市につなげて、地域の担当である児童委員の方へ話が来るのか。

また、地域の未就園児に対する支援の方法について伺う。

さらに、防犯について、オープンな園舎ということで隣の公園から園内が見えるという話があった。子どもたちが楽しく遊んでいる姿が見られることはよいが、逆に不審者が出た場合、どのように対応されるのか。

【理事長】

児童相談所が関わっている場合は、園では、虐待的なところや、栄養面などを見て、児童相談所から家庭訪問した時の様子や保護者の状況について情報共有をいただくとともに、市や民生児童委員とも、情報共有しながら連携していく。それぞれの役割があるので、どこまで関わったらいいのか、相談しながら関わっていきたい。

未就園児については、地域交流活動支援事業の導入を予定している。そこで在籍園児ではない親子に利用いただき、子育て相談ができる職員を配置し、育児不安への相談指導や、親子同士の交流をしていただく中で、ママ友や子どものお友達ができる場になればと思っている。このように孤立化した家庭の支援をしていきたい。また、一般型の一時預かり事業を実施し、未就園児を預からせていただく中で、子育て支援とその子どもの育ちに関する事業を行っていきたいと考えている。

【理事】

不審者対応については、防犯カメラを設置し事務室で見られるようにする。壁面沿いについて、公園側の他、西側の下に用水路が通っている道のエリアも少しカメラに映るようにしたい。事務室において常識的な判断でやっていく。もし他の職員が間違って開けたとしても、事務室がすぐに指示を出す。モニターで全部見られるようにし、担任だけではなく事務室にいる職員を含め全体で全部屋をカメラで見回っていくこともしたいと思ってい

る。

【理事長】

不審者対応訓練を定期的に行っている。不審者はどこから侵入するかわからないため、何通りかの侵入場所を想定し、子どもたちがどこにどのように逃げるのかを考え、有事の際には、すぐに反応して動けるように訓練している。

（4）法人C

【法人C】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田 佳司 委員】

藤崎地域というところ、そして私立化という市立保育所を継承するというところ、さらには子どもたちが居ながらにしての施設整備もあるということで、ハードルの高い事業かと思うが、貴法人が応募に至った一番の理由は何か。

【理事長】

まず、習志野市に馴染みがある。今私が住んでいるところから10～15分ぐらいの場所であり、地域性や環境について身近に感じた。また現在、広い園庭を持つ施設を最初から整備するのは資金面、環境面共に非常に難しい中、元々土地があるというところは大きい。他市にある当法人の運営施設では、市街地から離れた場所で広い園庭を取っているが、今回は市街地の方にある。ここが一番の応募理由である。

【竹田 佳司 委員】

この藤崎地区というところで、貴法人による経営のメリット、例えば連携など何か相乗効果が生まれる面があればご紹介いただきたい。

【理事長】

当法人が運営する保育施設からは距離があるため、当法人が設立母体の会社が運営している就労支援事業所や老人ホームとの連携を考えている。例えば、これまで就労支援事業所で作ったお菓子を保育園の職員に渡したり、老人ホームからおじいちゃんおばあちゃんが来園して子どもと触れ合うといったことを実施しており、今回も同様のことができるのではないかと思っている。

【竹田 佳司 委員】

市立施設の私立化ということで、何かこうしていきたいということがあるか。

【理事長】

藤崎保育所の歴史を継続するということがまず一番だと考えている。

皆さんが慣れてきた時に、私たちなりの提案を皆様と協議をしながら進めていくという姿勢でいる。ここが今一番考えている最初に注意していきたいことである。

【遠藤 良宣 委員】

既存園舎で保育をしながら、工事を実施する。そして、新設された以降は解体工事ということで、子どもたちは長い期間工事作業の中で育っていかなくてはならない状況となる。送り出す保護者にいかに安心感を与えられるかというのは工事だけではなくて、運営側の説明や保育の実情が非常に重要だと思う。その辺についての考えはいかがか。

【理事】

保護者に対しては事前にきちんと施工計画等を説明したいと思う。また工事中も質問等ができる窓口も設置したいと考えている。子どもたちについては、重機などは目新しくも危険が伴うものなので、工事中の教育については、現場の保育者と協力しながら徹底していきたい。

【遠藤 良宣 委員】

工事の影響は少なからずあるだろう。ただ時間帯を配慮しようとすると、工期が延びてしまい、整備面の費用が増幅しかねない状況も出てくるように思うが、その辺についてはしっかりと財務上の管理をしていただきながら運営していただける、安心して任せられるとの理解でよろしいか。

【理事】

当法人の施設は全て木造である。これは、初期の設備投資を抑えることが一つの目的である。今回提出した決算資料を御覧いただきたいが、令和2年度に新しく保育園と学童クラブを開設した。その点については、施設整備費を支出しているが、それ以降は、事業収支、資金収支とも黒字で整理をしている。資金残高についても、令和3年度末時点で、1億4，261万円あるので、運営面もだが、人的採用についても準備をしっかりとしていきたい。

【遠藤 良宣 委員】

先ほど、しっかりと第三者を入れた研修をしながら、今後、保育の環境等の改善を適宜実施していくとの話があったと思う。このことについては県の指導監査の中で同様の指摘があったと思う。園児や保護者や関係者に定期的にその状況について公表に努める旨の指摘があり、この指摘を受けて、法人として第三者機関のチェック機能というものを働かせていこうとの意思決定をされたという理解でよろしいか。

【理事】

そのとおりである。

【田島 大輔 委員】

法人所在地から遠い場所に大規模な園を建設し、開設するということになるが、施設長予定者は未定で採用計画が不透明である。この部分について、法人としてどう考えるか。

【理事】

まず当法人は県内他市で保育施設の運営をしている。園長については、習志野市で保育経験のある方をぜひ採用したいと考え、新たに募集したいと考えている。

募集計画については、既存園の保育士のうち16名が社宅を使っている。よって、転籍が可能な保育士が16名いるということを前提にお話させていただく。

採用予定については、所長が1名と保育士16名となっているが、16名は4段階で準備したいと思っている。1段階目が既存保育士の転籍。2段階目は令和6年4月からの共同保育開始の時点での採用。3段階目が令和6年度中の中途採用。4段階目が令和7年4月の採用である。採用方法ついては、求人サイトなどを使いたいと思っている。

ちなみに、今年度の当法人の実績としては、令和2年度に保育園を開設した際は正直保育士が足りない部分があったが、令和5年4月期に9名の採用が決まった。中にはお

断りした状況もある。求人活動は今年度については非常にうまくいったので、そのデータを活用しながら、藤崎保育所でも実施していきたいと考えている。

【田島 大輔 委員】

異動可能人数16人とは、既存施設の職員とのことなので、既存施設の穴埋めが必要になり、単純計算は難しい。話のあったようにしっかりと計画していただきたい。

次に、職員採用のところで、園長、つまり要になる人間がどのように保育内容を考えるかということが非常に重要である。説明にもあったように正課活動を特色としている、若しくは園を選んでもらう理由にしているにもかかわらず、正課は既存園では行ってない。つまり、藤崎保育所に関しては現在の保育内容からはかなり変えた保育内容にしていかなければいけないということが容易に想像できるが、この部分についてはどのように考えているのか。

【理事】

まず既存園の先生方とのすり合わせが大切になってくると思うので、移管先としての決定をいただいたら、藤崎保育所の所長に相談しながら、すり合わせを行っていきたい。

新たな園長の採用については、当法人の運営方針と藤崎保育所の保育計画の継続と、実際にICT化といった部分を採用したいということを踏まえながら、採用を行っていきたい。

【田島 大輔 委員】

現時点では保育内容については今後考えていきたいレベルであるとの認識でよろしいか。

【理事】

あくまでも今回の藤崎保育所の保育方針を継続することを大前提としている。資料関係では読み取れない部分もあるので、現在運営をされている方々とも協議を積み重ねながら、実施していきたい。

【田島 大輔 委員】

研修の体制について、かなり課外的な研修を入れているということだが、保育内容の研修については、実際どのくらい、どのように実施しているか、実情を伺う。

【理事】

現在行っている研修は、園内研修と、外部研修への参加の二つである。

外部研修については、キャリアアップ研修を中心とし、乳児クラス、幼児クラス、事故防止安全対策、看護師分野の研修と様々あるため、まず園の中で年間の研修計画、またそれぞれの職員の役職によって受けて欲しい研修を年表にし、市や県から研修の案内があればこの研修内容はどの職員が受けるべきなのかを幹部で話し合い、行事との重なりがなければ、なるべく研修に取り組めるように調整する。もし出席できなければ、代わりの研修がないか過去の履歴から探し、1年の中で受けられるよう配慮している。

園内研修については、その年の職員構成よって内容も変わってくるが、基本的には保育の部分について、かなり学び合う機会を取り入れている。1日の流れの中で園の課題は何かを洗い出しながら、研修している。

保育については、乳児保育で大切にしていかなければいけないこと、幼児保育の中で大切にしていかなければいけないこと、食育についてなど、様々な分野に分けて研修

計画を立て、それぞれが担当になり研修を行っている。

【田島 大輔 委員】

第三者評価の受審について、県の指導監査で口頭指摘がある。この後どのように受審されているかの状況の確認だけ伺う。

【理事】

第三者評価については、今年初めて実施した。来年1月ごろに評価機関から最終的な講評を受ける予定である。

【五十嵐 公子 委員】

保育者による虐待が日々ニュースになっている。アプリを活用して保育の見える化を図られるということであったが、子どもや保護者との信頼関係を構築していくために、私立化の過程で特に大切にしていること、また私立化後に法人として特に力を入れていきたいことなどを伺う。

【理事】

虐待の報道を受け、当法人では、園内研修を行った。その中で私たちが日々の保育を振り返る学びの機会を持つことがすごく大事だと改めて思った。もちろん当法人の中では現状そのようなことはないが、報道されている案件や、県から資料等で送られてくる事例を共有し、語り合う、話し合う。私たちが日々保育の中で気づいたことを伝え合う。そういった繰り返しが虐待防止に繋がってくると思うので、引き続きそのような対策を行っていく。

【理事】

現在の保育園において、すべての保育室にライブカメラを設置している。状況を把握することと、保育者自身を守るという観点からの設置であり、保存期間は1週間である。今回も設置したいと思っている。

【理事】

保護者との信頼関係づくりについては、まず施設長は施設の門扉等に立ち、挨拶などをする中で、少しでもたくさんの保護者と色々な話ができるようにしていきたい。また、施設長や主任、副主任等は、色々なクラスを回り、子どもたちとたくさん話す中で得た情報を、保護者とお会いした時に伝えていけるような形をとり、コミュニケーションを深めていきたいと考えている。

【理事】

設備面については、アプリで手軽に連絡ができる体制をとっている。日々の報告もだが、保護者がどこでも状況が把握できるアプリを使っていただいている。

その他コロナ禍においても、リモートでの個人面談や保護者会も実施した。

【理事】

アプリを活用して保護者アンケートを実施している。大きな行事の後は感想や意見についてのアンケートを実施し、改善事項を保護者に知らせている。保護者会は園の方針や大切なお知らせを共有する大事な機会なので、年度の初めと年度末に実施したいと思い計画に入れた。その他は園だより、クラスだよりでさらに保育の詳細をお伝えし、保護者と共有できるようにしている。

【近藤 明美 委員】

特別な支援を要する子どもの受け入れについて、学級の中で特に配慮し大切にしていることは何か。

【理事】

当法人の保育園でも配慮の必要なお子さんがおり、職員を1人加配し、通常のクラス運営ができるように保育をしている。移管後についても、対象者がいれば、丁寧に引き継いでいきたい。職員採用のところでプラスの募集を行い、継承できるように考えている。

【中川 紀子 委員】

職場体験の受け入れは可能か。

【理事】

もちろん可能である。

当法人の施設でも近隣の小学校から職場体験の子どもたちが20～30人来園する。先生方の仕事について等丁寧に話をさせていただいている。習志野市でもぜひ取り入れたい。

【中川 紀子 委員】

藤崎保育所では、コロナ前は園庭開放も実施していたが、この部分についてはどうか。

【理事】

現在、当法人では、子育て支援事業にも力を入れている。コロナの感染者が多い時は、室内遊びを止め、園庭開放という形で、毎日、市内の親子が遊びに来ていた。今はコロナが少し落ち着いてきているので、1イベントにつき3組の親子を招き、制作体験、触れ合い体験、体操体験などを実施している。地域によって保護者のニーズは異なると思うので、まずは市、それから保護者の意見、考えを伺いながら、なるべく園をオープンにして、使っていただきたいと考えているので、園庭開放もたくさん取り入れていきたい。

（4）法人D

【法人D】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田 佳司 委員】

今回は習志野市の藤崎という地域においての市立の保育施設の私立化、さらには子どもたちが居ながらにしての施設整備もある中で、かなりハードルの高い事業かと思うが、その中でも、応募に至った一番の動機は何か。

【理事】

当法人は県内で保育園を3園運営しており、千葉県には、もともと保育を実施している土壌がある。また、当法人の方針として、保育園を地域に一つだけ作るのではなく、なるべく数を作って、人事交流や非常事態の時の対応がすぐにできるような体制、あるいは園児や園同士の交流ができるような体制づくりを考えている。今回はそのために良い機会であり、応募した。

また、運営する学校も関東には多くある。今、単なる預かり保育に限らず、教育をベースにした保育を取り入れることを実施している。学校との連携もできるのではないかと思い応募した。

【竹田 佳司 委員】

行事関係でも連携できるような提案もあるが、既に県内他園で、何か連携や相乗効果の具体的な事例があれば伺う。

【担当者】

現在勤務している園は開設してまだ3年経っていない。今後、子どもたちも一緒に交流できたら良いと思っているが、今時点では直接交流をして何か一緒にやるということはない。

【竹田 佳司 委員】

法人独自の特色という部分については参考になる部分も多々あるだろうが、一方で、今回は市立保育所の私立化であり、藤崎保育所の運営を引き継ぐということになる。こういった場合において、注意したい、またはこういうことをしていきたいということがあれば伺う。

【担当者】

今実施している保育や行事が、運営者が変わることによって違和感がないように、そのまま引き継ぐことがまず原則であると考えている。

先ほど法人の特記事項でできることをいくつか説明したが、こういったことを進めるにあたっては、保護者の意見や希望等を聞きながら、実施している。また、やり方も全ての子どもに強制するわけではなく、それぞれの意見を聞きながらやっている。外で遊びたい子もいれば、中で静かに遊びたい子もいるので、保護者の希望を聞きながら進めることを原則としている。

【遠藤 良宣 委員】

藤崎保育所が運営されながら新築工事に携わっていただき、新しい園舎ができれば、解体をしなければならないという、子どもたちは長きに渡って工事の環境に置かれて、生活をしていくという状況の中で、提案の中に、園舎の各窓に防塵シートを貼ってほこり等の対策を講ずるとの記載がある。コロナ禍にあり、既存窓に防塵シートがあると、窓を開けてもシートが貼ってあることになり、ややもすると、新鮮な空気が入ってこないということにならないのか。保護者も心配になるのではないか。この辺についての見解を伺う。

【担当者】

今回提案の防塵シートは外気との空気の入れ替えができる、全く密閉されたシートではないもので、これは工事関係者に確認して提案した。また、ここは資料を見ると、元の園舎を建設するときに、大分パイルを打ってあり、地盤が弱いことが考えられる。そういった場所に園舎を建てる工事を当法人では既に経験している。よって、その経験が生かされると思っている。また、地盤改良は、財政的に非常に負担となる工事である。今回は財政的なものも考えて提案をしているので安心して工事を任せられると考えていただいて結構である。

【田島 大輔 委員】

公立施設を引き継ぎ、新たに園を建てるという経験はあるのか伺う。

【担当者】

民営化ではないが、公立の園が閉園した代わりに、認可保育園を運営したことはある。

【田島 大輔 委員】

それは引き継ぎ方式ということか。

【担当者】

そのとおりである。

【田島 大輔 委員】

先ほど保育内容のところで、今の保育を引き継ぎ、動揺がないようにとの話があった。当然保護者としては非常に重要な話かと思うが、一方で選考していくとなると、その法人がどのような保育理念や内容をお持ちなのか、どのようなビジョンをお持ちなのかということが非常に重要かと思うので、動揺がないようにということを前提に、引き継いでいく中でも、貴法人に任せるとこういうことがある、といったことについて具体的に伺う。

【担当者】

市から示されている予定のうち、引き続き期間において、新しい保育園の職員も入って保育を経験することになっており、それがまず第一だと思う。

【理事】

引き継ぎもあるが、当法人であればできるという部分で、心身ともにたくましく人間性豊かな子どもの育成ということで、幼児体育指導というのを重視してやっていきたい。少しずつ当法人としての考え方をもってやりたいと考えている。

【田島 大輔 委員】

話のあった、全国でグループを持っているもしくは地域で固まった形でやっていく方が有効であるとの点について、確かにその通りだと思う一方で、資料にある県の指導監査の文書指摘事項を見ると、保育士の配置について少し要件を満たしてないことが散見されている。これについては当然是正されているものと思うが、少し矛盾を感じる。採用計画について懸念はないのか。

【担当者】

最近の状況では、保育園を開園すると臨時職員への応募を必ずいただくので、その方達で対応する場合が多い。一般の方もいるが、既存園からの異動も必要である。また現在藤崎保育所に勤めている会計年度任用職員の方で、法人が変わってもそのまま勤めたい希望があれば、そういう方は優先的に雇い入れしていく形になるかと思う。学童保育での事例になるが、引き継ぎにあたり、職員は全て当法人が雇い入れた例もある。

【田島 大輔 委員】

２５人、他の職種も入れると３４人とは、かなりの職員数を予定されているので、配置基準を満たさないことがないようにしていくことは、確認いただきたい点なので指摘した。

先ほど研修や人事についてグループで連携していくとの話があったが、実際はまだそこまで稼働していないとの発言もあった。今回決定すれば、県内で4園となるが、その4園での連携についてどのように考えていくのか。また、習志野市就学前保育一元カリキュラムについて、どう引き継ぎ、研修していくのか今具体的なビジョン等があれば伺う。

【理事】

職員研修についてはグループ全体で年に2回実施している。園長については、毎週1回各園の状況報告という名目でリモート会議を行っている。行事は、東京の園では、コロナ前までは、グループ全体の運動会ということで年に1回、幼児体育の発表会をやっていた。3歳以上が在籍している園では、幼児体育の指導員を必ず2名以上配置しており、その職員に対する指導を月に1回実施している。将来的には、園対抗の催し物等を計画したいと考えており、令和5年度から集中的に幼児体育を実施する予定である。

幼児体育については、希望性で同じウェアを着用して行っている。将来的には地域全体で何かイベントを行いたいと考えている。

【田島 大輔 委員】

職員採用予定人数の保育士の中には、幼児体育の専任教員が含まれているということか。

【理事】

そのとおりである。

保育士として採用した後、幼児体育に興味のある職員は優先的に資格を取っていただいている。

【田島 大輔 委員】

つまり提案されている採用計画に記載の他に幼児体育の職員がいるのではなく、この中に含まれているということか。

【理事】

そのとおりである。

【五十嵐 公子 委員】

私立化の過程で子どもや保護者と信頼関係を構築するために、特に大切にしていくこと、また、私立化後に特に力を入れたいことは何か。

【担当】

保護者との信頼関係については、日々の送迎時の挨拶や引き受けの際などの一言一言の会話の中で交流を図っている。子どもたちに関しては、とにかく一緒に遊ぶ。

そして、しっかりと子どもの話を聞くということを行っている。

【近藤 明美 委員】

特別な支援を要する子どもの受け入れについて、学級の中で特に配慮をしたり大切にしていきたいこと何か。

【担当】

現在在籍している園でも、特別な支援を要する子どもを7名ほど受け入れている。

保護者と相談し、本来とは別のクラスで預かっている子どももいる。その子は地域の療育施設に園に迎えに来てもらい、月に半分程その施設で療育を受けている。

また、別の療育施設の先生が来園され、支援が必要な子どもへの関わり方などについて保育者にアドバイスをいただいたり、保護者との間に入っていただくなどしながら、よりよい子どもの成長をサポートしている。

【井口 百合子 委員】

藤崎地区の未就園児やその保護者に対する支援について具体的なものがあれば伺う。

【担当】

やっていきたい支援だが、コロナ禍の影響で現状はやれていない。

【井口　百合子　委員】

藤崎地区の小さなお子さんたちが安心して集まれる場所が少なくなっている。ウィズコロナで少しずつでも地域の子どもたちを受け入れつつ保育園を開園していただけるとありがたい。検討いただけたらと思う。

【理事】

現在宮城県で子育て支援センターを実施している。未就園児が利用しているが、近くにある系列保育園の見学や行事に参加するといったことを実施している。できれば今回もそういう部屋を1部屋作り、心配事などの相談に来ていただくことは十分可能である。

（4）法人E

【法人E】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田　佳司　委員】

私立化の経験がいくつもあるとのことだが、今回は子どもたちが居ながらの施設整備もある。少しハードルの高い事業だと思うが、その中でも、今回応募に至った一番の理由は何か。

【理事長】

全く同じスキームの私立化を県内で3年ほど前に行った。その時と敷地内の園舎や園庭の位置などほぼ一緒という状況だったことから、工事に関しては、その時の経験を生かして、さらにバージョンアップできるだろうと考えた。

【竹田　佳司　委員】

習志野市の保育の特徴について、感じていることや、これからこうしていきたいということがあれば伺う。

【施設長予定者】

保育一元カリキュラムについて勉強した。現在都内の保育園に勤務しているが、習志野市の方が詳しく書かれていて、子どものエピソード、それに対する環境構成、保育者の援助等について、文章のみならず写真つきで載っているところに感銘を受けた。経験がある保育者だけではなく、新人保育者にとってもかなりわかりやすい取り組みであると大変印象に残っている。

【竹田　佳司　委員】

これまでの私立化の経験の中で、非常に気を使うところ、またその成功例、反省点などの実例があれば伺う。

【理事長】

県内他市で、4、5年前に大きな保育園の私立化を実施した。その時は、三者協議会に毎回必ず私も出席したが、保護者からの、この行事は残して欲しいなどの生の声を

伺いながら、皆が納得した形で私立化できた。建物は変わったけれど保育園っていう場所は変わらなかった、という声ももらい、とても上手くいって非常に嬉しかった記憶がある。その過程の中で最も難しさがありながらも重要だったのは、定期的な現在の保護者たちとの対話だと思っている。平日の夜間や土曜日となるが、その時間は貴重であり、今回もうまくやっていく必要性を強く感じている。

【担当】

県内の別の私立化した保育園の事例であるが、子どもたちにとっては慣れ親しんだ園舎と別れて新しい園舎に行くという環境の変化もある。そのため、もともとある園舎での思い出づくりのほか、新しい保育園ができていく過程を楽しみに見守る仕掛けを大事にし、それが結構成功したと思っている。

その一例は上棟式である。保育園の子どもたちや保護者にもお声掛けをした。非常に距離が縮まる意味では成功事例だったと思う。

【竹田 佳司 委員】

裸足保育、異年齢保育、保護者が主体となったサポート活動などの独自の事業について、習志野には馴染みがないが、どう馴染ませていくのか、保育室も3歳から5歳児が一つの大きな部屋のように見受けられるが、その使い方について伺う。

【理事長】

部屋の使い方については、特別子どもたちに、ここにいなさいということはしていない。広い部屋の中にもしっかり環境構成を設けて子どもたちが興味や関心を持ったら、そこに集まっていくような仕掛けを作っていくことが非常に大事だと思っている。

また、全園で4メートル程の屋根付き縁側スペースを作っている。主にそこがリビング的な空間になることが特に冬場は多くなっていく。雨の日や昼寝の時など、子どもたちが休む時に部屋の中に入っていくといった使い方や、毎日必ず行うリズム体操の時間に裸足で走り回るといったこともある。かつて、クラスごとに壁を立てた園舎を建てたこともあるが、経験から、壁がない方がより質の高い教育につなげやすいと感じ、今はこのような設計をしている。

【遠藤 良宣 委員】

施設整備の安全計画について、仮設物を移設していくという計画に至った背景を伺いたい。

【担当】

主眼は、工事の影響は必ずあるが、保育がいかに望ましい形で継続することができるか、 最善を尽くすことができるか、そこからの逆算で考えた。一番には安全、その次に子どもたちの保育の環境の確保、それに沿って考えた時に提案のような計画となった。できるだけ園庭は確保したい、でももちろん工事は工期に沿ってやらなければいけないという中で、その時に必要な最低限の配置にしていくということでの計画である。確かにあまり途中で移設しない方が経費もかからず、工程的にも楽ではあるが、そこは何を優先するかというところでこのような計画にした。

【遠藤 良宣 委員】

あくまでも、そこに集う子ども達を第一において安全計画を考えていただいたと理解した。

これまでの全国で展開する施設について、休日等については地域開放しているとの話があった。藤崎保育所がある藤崎3丁目は、地域の公共施設等がない中で、地域開放していただけるということはありがたい話であるが、全国で展開をしているこの開放の取り組みについて、地域住民や保護者からの反響、いい面、悪い面があれば伺う。

【理事長】

地域のサークル活動の場所がなかなかないということで、お礼を言われることの方が多い。園側のメリットとしては、子どもたちが帰る頃、老人会の方たちが集会のために集ってきて、その際、皆さんが子どもたちに挨拶や声をかけてくれるといった相乗効果がある。デメリットを感じたことはない。

ただ、質問とはずれるが、やはり工事があるとなると地域の住民が喜ぶわけではないということは当然承知をしている。よってそういった説明はしっかり丁寧に行っていかなければと思っている。

【遠藤　良宣　委員】

幼児の段階から多世代が交流することにより、これまで、こんな良い点があったといったことについて、教示いただきたい。

【理事長】

色々なところとの繋がりがある。大学の学生と子どもたちの交流については、普段の保育の中では作れないようなロケットを作るところを見せてもらった事例があったが、子どもたちがお兄さんお姉さんに憧れの気持ちを抱く一方で、学生側も福祉という職業に対してもっと深掘りをしてくるケースもある。私立の高校生との交流もある。0歳から2歳児が通う小規模の家庭保育室が定期的にバスで保育園に遊びに来る際には、園の3、4、5歳児がお兄ちゃんお姉ちゃんとして振る舞うといった場面も出てくる。エピソードを挙げると切りがないが、誰とでもしっかり目を見て挨拶をして、関わりたい気持ちを育むという意味では、一人でも多くの方に出会わせてあげたいと思っている。

【田島　大輔　委員】

公立からの私立化という中で、保育内容について、今後どのように藤崎保育所の質を高めていきたいかというビジョンについて伺う。

【施設長予定者】

日本の保育園は保育所保育指針に沿って運営をしていかなくてはならないというところはマストで変わりはない。よって基本的には、当法人が大事にしていることと藤崎保育所が大事にしているところにさほどずれはないと思う。ただ、私自身が藤崎保育所にしっかりと出向き、コミュニケーションをとる中で、今実際にいる子どもたちの様子を見て、どういうような関わりがいいのか。そして、どのように進めていけばいいのかということを、私自身の目でしっかりと見て、考えを深めていくことが大事だと感じている。

【田島　大輔　委員】

貴法人が大事にしていることと藤崎保育所が大事にしていることは同じだろうとの話だが、一方で、やり方や見た感じが違う印象を受ける可能性もある。そういった時の説明の中で、どんなことを大事にしていくのか、もしくは藤崎保育所に現在勤務している会計年度任用職員の採用を丁寧にしていこうと思っているときに、その保育者たちが、私たちが現在やっていることが大きく変わるのではないかと思うこともあるかと思うが、こ

の点についてどのように説明したいと思っているか。具体的にどの部分とどの部分が一緒だと考えているのか。

【施設長予定者】

“ずれ”については、トップダウンではなく、まずはしっかり藤崎保育所の職員の話 を聞くところから始めたい。“一緒”については、保育一元カリキュラムの5つの項目についてかなり当てはまると感じている。1番の「共に生き、育ち合う保育観」については、「子どもの権利条約」が入ってくると思うが、保育の振り返りという点で、PDCAサイクルで子どもたちの様子を見て、計画に反映させて、それが好循環していくというサイクルは全く一緒であると思った。時間の関係でここまでとするが、かなりリンクするところはあったと感じている。

【田島 大輔 委員】

法人内で研修してきたことを、どのように園内で生かすか、もしくは今実施している取り組みなどを伺う。

【施設長予定者】

学ぶ機会がかなりたくさんあることは確かに魅力であるが、保育の中では学ぶだけではなく、発信することが重要である。これは私自身の課題でもあり、現場の課題でもあると常に感じるところである。

研修で学んだことを自園でどのように展開するのかというアウトプットが日本中の保育の質を高めていくことに繋がってくると思う。研修を受けるだけで終わらずに、しっかりと周りに広めて、自分の理解を深めていく、ここがポイントになってくると思う。

【田島 大輔 委員】

そのための具体的な方策として現在行っていることはあるか。

【施設長予定者】

月1回の園内会議の場などで、研修を多く行っている。外部や法人内研修を受けた職員がいれば、その職員から具体的な研修内容についてのアウトプットを行ってもらう。そうすることで、研修を受けた職員の振り返りになるとともに、学びが広がっていく。こういった取り組みを自園でも進めている。

【五十嵐 公子 委員】

私立化をしていく過程で、子どもや保護者との信頼関係を構築するために、特に大切にしていることがあれば伺う。

【理事長】

現藤崎保育所の保護者との話し合いの時間が一番重要だと思っている。これまでの経験で、話し合いをして質問をたくさん受ける中で、当然だが私が考えている以上に、保護者には不安が多くあるということを感じている。一つでも気になる部分があれば聞いていただき、私達が心を込めてしっかりお答えをしていくことで不安がなくなっていくことや、私立化後に実施していくことなどもしっかり伝えるべきだと思っており、実際にこれまで三者協議会に私が出席した際それは伝えてきた。例えば、「今、園の課題としてこういったことを感じているため、来月からこういった取り組みをやってみて、うまくいかなかったらもう一度別のやり方に変えてみます」など、これから藤崎保育所が私立化していく中で、法人が何を考えどんな努力をしているかということを正直に伝えていくこと

は、施設長予定者や法人が保護者からの質問に丁寧に答えることに加え、信頼関係を作っていく上で非常に重要になってくると思っている。更に地域住民に配慮していくことも、とても大切だと感じている。

【近藤 明美 委員】

特別な支援を必要とする子どもの受け入れについて、特別扱いはせず、皆と一緒に過ごすとの話があったが、子どもの育ちに沿った支援計画があり、担当者はいると思う。担当者とクラス担任との連携について伺う。

【理事長】

どの園も一律というより各園が主体となっているということを前提に答える。支援を要する子どものケース会議を必ず行っている。その中で、担任の経験が浅かったり、個別支援計画を立てる知見がまだ足りていないといったことも正直あるので、施設長や、施設長がまだ経験が浅い場合は、スーパーバイザーの他園の施設長が同席をしながらしっかり実施している。また、当法人が運営する発達支援センターに在籍しているスタッフにもリモート等で同席をしてもらいながら、支援計画に足りない部分のアドバイスをもらったり、立てた計画の振り返りをして、その内容をしっかりと保護者にお伝えしていくというのが現在のやり方である。

【中川 紀子 委員】

地域子育て支援室を設ける提案があるが、同じ園舎の中で実施すると考えてよろしいか。

【理事長】

そのとおりである。

【中川 紀子 委員】

地域の方と子どもたちが触れ合う機会もあるということか。

【理事長】

子育て支援室に行く際は、園児と触れ合うことができるように同じ玄関を通る設計をしている。あえて交流が生まれることを意図している設計である。

【佐久間 心之 委員】

昨今、報道等で他法人の不適切な保育について大きく取り上げられているが、これだけの規模の事業を運営する中で、こういった報道を受けた後、法人として行った取り組みがあれば伺いたい。

【理事長】

報道を受け大きく変えたことはない。法人独自の虐待の定義を20項目ほど設けており、例えば後ろから急に子ども抱き上げるというのも虐待に該当するであるとか、かなり細かい定義を定めている。それを目撃した人は必ず注意し共有し報告をするというルールがあり、1人に1台貸与しているスマートフォンのチャット機能にて報告、共有がなされるようなシステムがある。残念ながらこの報告はゼロではない。ただ、そういった報告があれば、即日にでも面談をするという体制を今回の報道前から行っている。芽が小さいうちに一緒に心の整理をすることを心掛けている。

（4）法人F

【法人F】

応募資料に基づき、プレゼンテーションを実施。

【竹田 佳司 委員】

今回、子どもたちが居ながらの施設整備が必要になる事業だが、その中で応募に至った理由は何か。

【理事長】

当法人の母体会社は、現在80の保育園を運営しており、県内では40施設を運営している。民営化に関してはまだ実績がないが、他市で2024年4月に民営化する案件について選定いただき、現在三者協議会など引き継ぎの取り組みをしている最中である。80施設運営する中で、もちろん独自でノウハウを構築してきたところもあるが、公立園からの引き継ぎで学ぶことが多くあり、その学びから当法人全体の質の向上ができるのではないかと考え、民営化に積極的に取り組んでいきたいと思い応募に至った。

【竹田 佳司 委員】

具体的に今回選定された場合に大事にしたいことは何か。

【理事長】

最も重要なのは引き継ぎの部分だと思う。いかにスムーズに齟齬なく保育が提供できるかといった部分が重要だと感じている。よって、最も気をつけなくてはならないのはソフトランディング、つまり急激に進めることなく、少しずつ説明を重ねながら進めていくことが、最も重要であると考えている。

【竹田 佳司 委員】

今年9月に社会福祉法人格を取得している。今取得した理由は何か。

【理事長】

これまで既存の母体会社で十分期待に応えられていると思っていたため取得の必要性を感じていなかったが、今回の公募もこれまでの株式会社では要件に該当せず応募できなかった。

【竹田 佳司 委員】

つまり、今回の応募にあたって社会福祉法人格を取得されたということか。

【理事長】

別の自治体の関係で取得に至った。

【遠藤 良宣 委員】

施設整備について、居ながら工事は保育環境に大きく影響することから非常によく検討いただいたと思う。苦慮しながらの運営をせざるを得ない中で、運営上、子どもたちのために何が優先順位として高いと捉えているのか伺う。

【担当】

子どもにかかる負担について一番気になるのは、騒音と振動だと感じている。この対策にはかなり気を使い、普通の工事よりも時間をかけて、作業時間を短縮し、保育の運営に合わせた工事を計画する必要がある。音に関してはほとんどがガラスから入ってくることがわかっているので、二重サッシを設置して対応したり、振動に関しては、子どもがいない時間帯に振動に係る工事を行うとか、本当に細かな作業工程を、日々の

保育の中で計画していかなくてはならない。丁寧に行うと工期も長くなるが、その方が子どもにとって負担はないというのは間違いないと考えている。

【遠藤　良宣　委員】

2つの大型遊具の設置についての提案があった。この遊具を設置することによる効果について、法人としてどう捉えているのか伺う。

【理事長】

明確なデータとしては、保育園では保育者が発達記録をつけている。母体会社で記録をクラウドを使ってデータ化し始めてから7年程だが、その記録を見る限り、大型遊具がある県内の保育園に通う子どもたちの体力と、園庭のない都内のビルインの保育園に通う子どもたちの体力では、県内の子どもの最も体力の低い子どもは、都内の保育園の最も体力の高い子どもと同じであった。よって、こういった遊具での遊びを4、5年続けるのは非常に効果があるということを最近実感したところである。

【田島　大輔　委員】

多様な研修を実施しており、法人のバックアップはよくわかったが、研修内容をどのように園運営に生かしているか、取り組みの事例などを伺う。

【施設長予定者】

法人内の研修や外部研修も行っているが、研修に参加した者が、その内容を他の職員にアウトプットし、全員で共有している。研修を受けただけでは、受けた本人も、まだまだ知識としてしっかり残っていないが、アウトプットすることで、自分の中にしっかりと学びが残るというようなことが言われているので、職員に下ろす作業を行っている。研修書類についても、ファイリングし、誰でもすぐに確認できる状況を作っている。

【田島　大輔　委員】

色々な保育内容をエビデンスベースで開発されているということだが、今回は私立化なので、習志野市の保育一元カリキュラムなど、これまでの保育を引き継ぎながら行っていくことになるかと思う。そのあたりについてどのような見通しをお持ちか、ビジョンを伺う。

【施設長予定者】

今まで行っていたことを急に変えるのではなく、引き継ぎの際にまずは現状を知り、その中で課題を見つけながら、一つ一つ取り組んでいきたい。

【田島　大輔　委員】

どのようなビジョンを持ってやっていきたいとか、こういった引き継ぎをしながらここは特色出していきたいといったことはあるか。

【施設長予定者】

個別最適化の保育と、幼児教育の部分に力を注いでいきたい。

【田島　大輔　委員】

採用計画について、保育の質に非常に影響してくる部分だが、採用をどのように行っていくのか、現時点の見通しでよいので伺う。

【理事長】

保育者の配置については、自治体によって配置すべき基準が異なっているので、国の基準は満たしているが指摘にあたるというところもある。こういったところが半分ぐら

いという実感がある。習志野市は1歳児の配置など比較的手厚い自治体に入ると認識している。当法人は習志野市では初めての運営となり、その場合、基本的に当法人は異動をメインに配置している。また、藤崎保育園で働いている方がどれだけ継続していただけるのかというところが、結構大きいと思っている。

つまり、異動で半分ぐらいと既存の方にどれだけ残っていただけるか、ここを配慮していきたい。

【五十嵐 公子 委員】

私立化をしていく過程で、子どもや保護者と信頼関係を構築するために、特に大切にしていること、それから私立化後に法人として特に力を入れていきたいところを伺う。

【施設長予定者】

園で取り込む日々の保育を明確に伝えていきながら、保護者が安心して子どもを預けられる関係性を築くことを一番大切にしたい。

具体的には、日々のブログや雰囲気が伝わる写真のスライドショー、また制作についても、取り組んだ理由について子どもの発達段階と併せて伝えるなど、子どもの育ちや保育の取り組みをわかっていただくことを行っていきたい。

【近藤 明美 委員】

特別な支援を必要とする子どもの受入れについて、学級の中で特に配慮していること、または今後も大切にしていきたいことなどについて伺う。

【施設長予定者】

特別に支援が必要な子どもがクラスの一員になれるような関わりを行っていきたい。その子どもの困り事が少なくなるよう、専門的な方に指導していただき、それを園全体の職員で情報共有していく。その子がプラスの1になれるような取り組みをしたい。

行事の中で自分の役割を見つけ、最後まで皆と一緒に取り組むというところで、集団の中の一員であるということや、その子をクラス全体で支えていくという、そのようなことを気をつけていきたい。

【井口 百合子 委員】

コロナ前に実施していた、小学生や中学生の町探検や職場体験の受入れについての考えを伺う。

【施設長予定者】

保育園はその地域の皆様にとって大事な役割があると思うので、当法人のガイドラインや国のガイドラインなどの中で工夫し、コロナ禍であってもできることを検討し行っていきたい。コロナ禍だから全くできないという考え方では行っていない。何だったら大丈夫か、それをやっていく上でどういうような衛生面での配慮が必要かということを考えながら取り組んでいきたい。最近も、高齢者が来園したところに、子どもたちがハンドベルの演奏をしてクリスマスプレゼントを届けた。夏祭りを戸外で行い、地域の子どもや保護者にも参加していただいたり、毎月の行事等にも参加できる取り組みもできるのではないかなと思っている。例えば誕生会の出し物を一緒に見ていただき、その際小さい子どもを連れて参加した保護者たちに、身体測定をしたり、育児相談をしたり、そういったことができるのではないかと考えている。

【佐久間 心之 委員】

特別に支援を要する子どもの保育について、習志野市では、保育指導委員会を設置し、支援を要する子に対する個別支援計画の作成や職員の配置などに取り組んでいる。貴法人ではグループ内で特別な支援を要する子どもの支援施設の運営も行っているとのことであったが、どのようなコラボレーションができるのか事例があれば参考に伺いたい。

【理事長】

当法人が訪問支援事業や児童発達支援事業を実施することになった経緯については、自分でやるしかなかったというところがある。保育園に通う子どもたちは、基本的には1歳半健診前に入園するので、入園し、育ってみて初めて気がつくことになる。最初に気づくのは保育者であり、そのことを保護者に伝えるのも一苦労だが、そこから受給者証が出るかどうか、保護者が納得するかどうかなど色々あり、保育園だけでは限界を感じ、児童発達支援事業所を開設した。よって、今お話を伺い、市としてそれだけやっているのであれば、心強いと感じた。

質問に答えると、他の自治体では、基本的に保育者の加配で対応するというような感じだが、加配の補助金もほとんどないので、事業者側としてできることはほとんどなく、苦慮している状況である。

【佐久間 心之 委員】

昨今、不適切な保育についての報道が多く取り上げられている中で、新たに法人として取り組んだことがあるか伺う。

【理事長】

全国保育士会にあるチェックリストを全員確認したが、今回の報道については、ここまでの問題は、起こったら園長や運営法人が即対応し、処分しなくてはならないと思う。保育園における虐待の問題は児童相談所の管轄外であり、保育園は虐待がない前提での制度設計になっているので、やはり法人としての対応の早さと厳しさというのは非常に重要だと思う。当法人も不適切な保育などがあった際は、その日のうちに動くということを徹底していく。

【施設長予定者】

園にビデオカメラが設置されているので、いつでも見えている感覚でいる。毎年チェックリストを使った確認は行っており、今年度も実施していたが、今回改めて再度実施し、気になる点が発見された職員とは面談を実施し、今後の対応について話し合った。また、園内で今回報道があった虐待事例について振り返りを行った。

私たちは、そんなつもりではなかったと思いがちだが、それを保護者が見ている前でやっても誤解されないかを判断基準にしましょうというような話もした。